

2014道本部青年部座長養成講座



講演する羽場社青同北海道地本委員長

3月1日～2日に札幌市・自治労会館で道本部青年部座長養成講座が開催され、54単組・総支部99人の参加があり、名寄市職労青年部からは6人（4役から安芸・高橋・佐藤唯 幹事・特別幹事から神田・矢野・堂前）の仲間が参加してきています。

集会は、瀧口道本部青年部長が「アベノミクスにより大企業にとっては利益増となっているが中小企業では利益が減少している。春闘をしっかりと闘い、政府による賃上げではなく、賃金は実態を基に生活給として勝ち取っていく」との挨拶がありました。まずは根本道本部賃金労働部次長から「給与の総合的見直



挨拶する瀧口道本部青年部長

し」の問題点について提起がされ、その後、羽場社青同北海道地本委員長から「職場で合理化はどのように貫かれてきたか」と題した講演がありました。講演ではゆでガエルの話を例に「いきなり熱湯に入れると飛び出してしまいが、常温から徐々に熱くしていく熱さに慣れてしまう。徐々に職場・賃金合理化をされることで今の環境に慣らされてしまっている」と述べ、打開するためには「一度『労働者としてのものの見方や考え方』を養い、実態討論を丁寧に行うことで課題や問題に気がつくことができる」と話されました。講演を聞き、労働組合があるからこそ急激な合理化に歯止め

をかけることができ、労働組合が無ければ自分達の職場はもっと合理化の嵐に襲われていたのではないかと感じました。

その後、分散会討論を行い、座長として分散会の進め方や心構えを学びと共に職場実態について討論してきました。分散会後の全体討論では「公務員は全体の奉仕者である」という言葉は、資本家が労働者に反対させないために使っている言葉なのではないか。身を削ってでも仕事をしないといけないという気分につながる。「道職員の給与削減について、独自削減圧縮により賃金が上がったような感覚になっている。それこそが問題である」といった声や、「一人ひとりが率直に困っていることを討論しあい、気づいたことをしっかりと職場に持ち帰るためにも、職場レポートの内容を職場がイメージしやすいものにしていく」という決意も出されました。

集会の最後に、瀧口道本部青年部副部長が「何気なく分散会に参



集約する樋口本部青年部副部長

加しているだけでは愚痴の言い合いで終わってしまう。講演にもあったように、労働者としてのモノの見方や考え方を意識することで、今まで当たり前と感じていたこともオカシイと思えるようになってくる。こうした小さな気づきを積み上げることが自分たちの要求につながる。今後の交流集会運動の強化も見据え、再度労働者としての視点で自分たちの職場を見つめ直していこう」と集約し、瀧口青年部長が「各集会で学んだことをしっかり単組に持ち帰り、広めていくことで運動前進を目指していこう」と挨拶し、団結カンパニーで集会閉じられました。



分散会で討論中の神田さん



座長要請講座集会の様子



分散会全体討論の様子



人事院への怒布（どこかに矢野さんが・・・）

名寄市議会議員補欠選挙！！

名寄市職労は第2回常任委員会で『たかの美枝子』さんを推薦決定しています。

たかの美枝子さんプロフィール

1953年 名寄市風連町生まれ

1972年 名寄市女子短期大学附属高校卒業

その後、民間企業へ就職、結婚

1989年 名寄道税事務所非常勤職員

2014年 退職

組合役職

自治労北海道本部臨時・非常勤等職員連絡会議議長

自治労臨時・非常勤職員等全国協議会 副議長 などなど

